2021年度10月 1日

オリーブ通信

しんあい

せいしょのことば

あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。

ルカによる福音書10章20節

神愛保育園

「神愛保育園開園70周年を迎えます」

少しずつ秋を感じられる季節を迎えました。今月は、運動会、いもほり遠足を予定しています。行事がいつも通り行えない中で、やっと千葉県にお出かけ遠足ができることは本当に嬉しく思います。今年度も密にならないようにバス2台を使って、実施いたします。

さて、今年は神愛保育園が開園70周年を迎える年です。1951年(昭和26年)11月1日、第1回入園式が行われました。当時この地域は、東京大空襲で焼け野原となりました。戦後の混乱と荒廃がまだ残る中、社会が発展途上の状況下、あまり良いとは言えない環境の中で多くの人々がその家族を含めて生活していました。この状況を知った初代園長である賀川豊彦は、多くのキリスト教の青年たちと地域への関わり深め、活動を始めました。賀川と言う人は、全国的な各種の社会運動、生活協同組合(現在のコープ)、農協を始め共同組合組織を日本で作りだした人々の一人であり、宗教家(牧師)、作家、教育者でもあり、他の多くの分野でも様々な働きをしました。又、キリスト教社会事業家として私財を投じて活動を行ってきました。現在の土地は、実は当時、東京都の払い下げの土地を賀川自身が購入し、そこに保育園・教会の建設をおこなったと聞いています。この神愛保育園の場所は、創立者の願いや思いがたくさん詰まっている土地なのです。

そして、賀川の仕事の一つに、現代にまで大きな影響を与えている「子どもの権利」(生きる、喰う、眠る、遊ぶ、指導してもらう、教育を受ける、虐待されない、親を選ぶ、人間一人格としての待遇を受ける)があります。子どもたちが生きてゆくために必要な基本的権利が守られることを願い、大人がそれを保障すること、すなわち社会がそれを保障すべきことを説いています。戦後復興の中、まだまだ子ども達が社会の混乱の中で、大事にされていないことに心を痛めた人々の熱意によって、園は開園されました。それから70年間ずっと時代が変化しても、この創立者の思いを大切にして、職員一人一人子ども達と向き合う保育を実践し、これからもその思いを引き継いでいきたいと願っています。

第一回の入園式が行われた11月1日には、園の子ども達と職員で「神愛保育園70年のお誕生会」を計画しています。70年のお祝いをどのようにして子ども達に伝えることができるのかと職員それぞれが考えています。調理室では、その日に向けてデコレーションケーキの作成を考え、当日のご馳走メニューの献立を検討しています。また、保育の現場では、全園児が参加できる記念品づくりに取り組んでいます。

第1回入園式の写真

長きにわたって、地域の方々や1049名の卒園児、そして現在利用されている子ども達や保護者の方々のご協力とご支援をいただきながら神愛保育園は歩みを続けてくることができました。感謝を申し上げます。 これからも、社会は劇的に変化を続けていくでしょう。そのような時代の中で、創立者の子ども観に立って、職員一同、子どもの姿をしっかりと見つめ、向き合い、支えていきたいと思います。　　神愛保育園園長　　鵜澤由記子

私の好きな絵本

第６回　担当　つくし組：大須賀

私の好きな絵本は沢山あるのですが、今回はその中で思い出深い一冊をご紹介します。私には、２人の子どもがいます。２人目が生まれた頃に「ちょっとだけ」という絵本に出会いました。２人目の妊娠中から、私のお腹が大きくなるにつれ、上の子の不安は、それと比例するように大きくなっていきました。下の子が生まれてからの１か月は、赤ちゃんを楽しみにしていた半面、ママは赤ちゃんのお世話をするのは仕方がないと思っていたようですが、パパが下の子を抱っこすることを嫌がっていました。独り占めしていたママ、パパが取られてしまう気持ちになったのだと思います。そんな娘も気が付けば、弟を可愛がるようになり、小さなママのようにお世話もしてくれていました。

この絵本は、主人公のなっちゃんのお家に赤ちゃんが生まれて、色々なことを一人でやって頑張っているお姉ちゃんの姿が描かれています。初めて読んだ時には、なっちゃんと娘が重なり、健気な姿に涙があふれてきました。最後は、お母さんの大きな愛情をもらい安心して眠るシーンがあるのですが、毎回読むたびに同じように娘をぎゅうっと抱きしめていたことを今でも、昨日のことのように覚えています。毎晩、寝る前に娘からこの絵本をリクエストされ、よく読んだ一冊です。秋の夜長にお子さんと読んでみて下さい。

「ちょっとだけ」のあらすじ

赤ちゃんが生まれて、お母さんが忙しいので、なっちゃんはいろいろなことを自分ひとりでやってみます。お姉さんになったからと頑張るなっちゃんですが、眠たくなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたくなります。お姉さんになったことで感じる切なさ、それを乗り越えることで成長していく子どもの姿を、母親の深い愛情とともに描いています。

福音館より転載

10月　食事だより

ひまわり組年長で朝ごはんのインタビューを始めました！

神愛保育園では例年年長クラスを対象に朝ごはんのインタビューを行っています。最初は朝ごはんの大切さについて話をし、朝ごはんを食べると体がどうなるのか、栄養はどのような働きがあるのかを知った上で、まずは3個の食べ物(料理)を食べる事を目標にします。しかし3個以下だったから良くないというわけではなく、明日は3個食べられるように頑張ろうと話しています。

子どもたちの中で毎日のインタビューが定着した頃に、少し段階を上げ栄養素についての話をします。食品群を3色に色分けして(黄色→炭水化物、赤→たんぱく質、緑→野菜類などのビタミンや食物繊維など)更に深く栄養価について話していきます。各色にはどのような食材があるのかもクイズ形式で伝えるなど、子どもたちが理解しやいように工夫しています。3個に加えて赤・黄・緑を各1つずつ食べられると、おなかもいっぱいになり体も元気になるという事で次の目標にしていきます。

年が明けて子どもたちの理解がより深まった頃に、一つひとつの食材について考えていきます。例えばジュースやスムージー、菓子パンはどの分類になるのかなど、子どもたち同士で話し合いをして進めます。

就学前の短い期間ですが、子どもたちが自分の食べるものに興味を持ち理解する機会をつくる事で食育に繋げていきたいと思っています。

ひだまり
～地域の親子と園児の交流～

心地よい風が吹きぬけ、本格的な秋の到来を感じる季節になってきました。

緊急事態宣言が何度も延長される中、「保育園で遊ぼう」「体験保育」や保育園での行事「夏まつりの日」「運動会」等保育園の園児とひだまりに遊びに来てくれる親子との交流する機会が少なくなっています。ひだまりのお誕生会も、お誕生月のお友だちみんなで一緒にお祝いすることを控えていますが、毎月お誕生日を祝う際は、手形を押した誕生カードとプチタオルのプレゼントをしています。

今年度は、その他にひまわり組が歌ってくれた讃美歌「うまれるまえから」のビデオを見てもらう様にしました。1歳のお誕生日を迎えたお友だちは、ひまわり組のおねえさん・おにいさんの歌声を笑顔で聞き、ビデオに見入っていました。今後も素敵な関わりが見られるといいな…と思っています。

福田

保健だより　２０２１年１０月

９月は中旬まで雨の日が多く、朝晩に秋らしい風の吹く日もあり、季節の変わり目を感じる気候となりました。例年この季節は夏の感染症（プール熱・ヘルパンギーナ・手足口病など）と冬の感染症（感染性胃腸炎・インフルエンザなど）が同時に発生することもあります。コロナウィルス感染予防とともに、園でもお子さんの体調や環境面に気を配っていきます。

【インフルエンザ予防接種】

インフルエンザの流行が気になる季節となりました。コロナウィルスとインフルエンザは初期症状が、発熱・倦怠感と区別がつきにくい為、注意が必要です。今年に関してはワクチンの供給量が例年の６割という情報があり、予約が取りにくいことが考えられます。また、例年 10 月 1 日から接種可能となっていましたが、今季に関しては例年の日程では供給が難しいようです。厚生労働省によると、12 月中旬までに継続的に供給されるということです。自治体や医療機関によって、差もあるようなので接種を希望される場合には、かかりつけ医院への問い合わせと予約をしてからの受診をお願いします。ワクチンに関しての新しい情報がありましたら、お伝えしていきます。

10 月 10 日は目の愛護デー

子どもの眼は毎日発達していて、両目の視力能力が 6 歳ころほぼ完成すると言われます。子どもは視力に異常が生じても、自分で症状を訴えることは難しいです。気になる様子が見られたら、眼科を受診しましょう。

〈こんなときは心配です〉

- 眼を細めてみる・片目で見る
- 顔を傾けてみる・まぶしがる
- いつも涙ぐんでいる
- まぶたが下がっている

＊視力検査は、一般的にはランドルト環と言われるもので実施しますが、一定の明るさと距離を取れる環境が園にはありません。そのため園では１１月、４歳児対象にドットカードを使用した簡易視力検査を実施します。３月には 3 歳児クラスに実施する予定です。うさぎの絵を見て目が見えるかどうかの問いで、視力を測定します。あくまでも簡易測定で、参考値となりますがご家庭にお知らせします。

～絵本紹介～

澄んだ青空とさわやかな風に秋の訪れを感じるようになり、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、実りの秋と、楽しみの多い季節がやってきました。今回は『読書の秋』という事で、季節に合わせた絵本と、私のおすすめの絵本をご紹介します。絵本を読んで秋を感じたり、ゆっくりとお家での時間を楽しめたらと思います。

「きょうはなんのひ？」　作：瀬田貞二　絵：林明子　福音館書店

朝、学校に行くまみこはお母さんに、「きょうはなんのひだか、しってるの？…しらなきゃかいだん３だんめ」と、謎の言葉を残して玄関をでていきました。そして、お母さんは階段で「ケーキのはこをごらんなさい」と書いてある手紙を発見しました。次から次へと手紙を見つけ、お母さんが最後に見つけたものは？対象年齢が５,６歳で少し難しい絵本ですが、心温まる絵本ですので、是非お子さんと一緒に読んでみて下さい。

「どうぞのいす」　作：香山美子　絵：柿本幸造　ひさかたチャイルド

ある日うさぎが小さな椅子を作りました。その椅子の近くに、『どうぞのいす』と書いた立て札を置きました。そして、動物たちが通り過ぎていくたびに色々なことが起こります。さて、どんなことが起こるのでしょうか？沖の季節を感じながら、どんなことが起こるのかドキドキ、ワクワクして楽しめる絵本です。

「ばけばけはっぱ」　作：藤本ともひこ　ハッピーオウル社

この絵本は、落ち葉や木の実を集めて『落ち葉あそび』が楽しめる絵本です。葉っぱの中に木の実や葉っぱで作った生き物が隠れています。「ふーって　はっぱを　ふいてみて。ふーっ！」と言うところがあるので、子どもと一緒に楽しめる絵本です。想像が広がり、とても面白い絵本だと思います。

「ねずみのいもほり」　作：山下明生　絵：いわむらかずお　ひさかたチャイルド

ねずみの家族が芋ほり大会に行くお話です。お父さんの作ったスコップがとても便利で、芋ほり大会に行く途中にも大活躍です。芋ほり大会では大きな芋を掘り、一等賞をとりました。帰りはお芋である乗り物を作ってみんなでお家に帰ります。秋ならではの大冒険が楽しめる絵本です。

ともにそだつ

私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2021年　9　月　17　日（金）　　天気　晴れ　つくし組（0歳児）

「どうぞ」

小名木川へ散歩に行く。歩いている際、まつぼっくりが落ちているのを見つけ、気付いたAに保育者が手渡す。Aが大切そうに持っていると、一緒に歩いていたBが「見せて」と言うように手を伸ばす。Aは「どうぞ」と言うかのようにまつぼっくりを手渡した。Bは貸してもらえたことが嬉しかったのか満足そうにまつぼっくりを持っていた。しばらくすると、「ありがとう」と言うかのようにAに自分からまつぼっくりを返していた。

自分の気持ちが強く出てくる時期になっている子どもたち。使いたいものや気になるものがあると、手が伸びる姿も増えてきているが、今回のように子どもたち同士でのやり取りを大切にしながら、少しずつ相手の存在に気づいていければと思う。

この時期は吹く風も気持ちよく、散歩に出るのが楽しい季節ですね。そして松ぼっくりは、子どもたちにとって秋の大人気アイテムです。その松ぼっくりでのAちゃんとBちゃんの微笑ましいやり取りの様子が記入されています。

“自分”の世界で過ごしていた0歳児クラスの子どもたちは、少しずつ自分のまわりへと興味を広げていくようになります。初めは“物”と“（関わっている）大人”から。そして今は、日中一緒に過ごすお友だちにも少しずつ興味が広がっているようです。Bちゃんは、松ぼっくりへの興味もあったと思いますが、“Aちゃんが大切そうに持っている”ということも、心が惹かれるポイントだったと思います。Bちゃんの「みせて」のアピールに、「どうぞ」と快く渡してくれたAちゃん。自分が大切にしている物を渡すことは簡単ではありません（大人も同じですよね）が、きっとAちゃんはたくさんの「いいよ」「どうぞ」を経験しているのでしょう。自分が感じた嬉しさを、お友だちに返してくれたのかなと思います。その思いに、「ありがとう」と気持ちを返したBちゃん。2人の嬉しい気持ちの交流が伝わる場面でした。まだまだ“自分”の世界が大きく、自己主張も強く出てくるため、毎度このような穏やかな関わりとはなりませんが、心が通う瞬間を見逃さずに、人と共に生きる一歩として、大切に見守っていきたいですね。

2021年9月9日（木）　天気　雨　ちゅうりっぷ組（3歳児）
「お友だちといっしょに」
今日は９名と少人数だったのと天気も雨だったので室内でゆっくり過ごす。ブロックで消防車やクレーン車をイメージして作るＡをみて、Ｂが「Ａくん、どうやってつくるの？」と聞く姿があり、Ａも「こうやるんだよ」と教えていた。ＣはＤと人形を交えて、実習生と１人２役の声で役になりきりながら遊ぶ姿があり、新たな友だちとの関わりが見られた。その反面、ＥはＦへの憧れと同じことをしたい気持ちが強く、Ｆが行くところには必ずついていく、遊ぶものも同じでないと嫌な姿があるが、ＥにとってＦは心の安心する友だちのようであった。ＧはＨと空き箱製作を楽しみ、「わたしたちはＦちゃんたちに負けないものをつくるわ」と２人で一緒に箱にマジックで色を塗り、「太鼓ができた」「船ができた」とイメージして作っていた。

２歳児クラスの後半や、３歳児クラスになったばかりの頃には、まだ保育士が仲立ちをしてお友だちと一緒に遊んでいました。しかし、３歳児クラスも後半になってくると、大人の見守りの中で、一緒にイメージを共有して遊ぶことが大変多くなってきます。そこから、お友だちと共に過ごすことの喜びや楽しみや満足感を感じます。子ども達を見ていると、この時期の一番の成長は、自分からお友だちに声をかけたり、自分の思いやイメージそして、主張をお友だちに対して表現する姿が多くなることです。特にイメージ遊びである「ごっこ遊び」は、一人ひとりのイメージが大切にされながら、仲間のイメージが支えとなって活動が成立します。役割を担いあって遊ぶことが楽しく、そして満足を感じる積み重ねが次の成長につながっていきます。３歳児クラスでは、まだ人数が多いグループのイメージ遊びでは、他者を受容する社会性が育つ過程なので、トラブルも見られます。まずは、じっくりと遊べて安心できる大好きなお友だちと少しずつ長い時間を過ごせるようになってほしいと思います。この日誌を読んでいると、気の合うお友だち３人から４人で遊べる日もそう遠くないようですね。